

る。一方、中玉トマトは、糖度

### 注目の種苗

トマトは日本における青果販売額でトップの品目だが、それでも年間消費量は8〜9キロと、海外における消費量と比較するとまだまだである。そもそも日本におけるトマトの消費はほとんどが生食で、サラダなどというのが定番の食べ方だ。

そんな中、加工用のトマトは少しずつ、かつ着実に需要を伸ばしている。その代表が10年前に発表された「シシリアンルーシユ」であるが、抵抗性がなかったことは否めなかった。しかる



に昨年の改良型として、モザイク病抵抗性(Tm2a)や葉かび病抵抗性を付与した「シシリアンルーシユCF」Ⅱ写真Ⅱがリリースされたのでご紹介したい。またシシリアンルーシユCF

を提供するパイオニアエコサイエンス株式会社では、これまでのトマトとは異なる栽培法を開発・提唱している。これも併せてご紹介したいと思う。

それは、ソバージュ栽培と呼ばれる露地・省力栽培方法で、従来のハウス栽培とは異なる。できるだけ設備投資をかけずに省力化することで、低コストで高い収益性を目指すトマトの露地栽培方法である。「今までのトマト栽培とは発想を逆転する」栽培方法であるといえよう。

栽植密度はハウスの約3分の1〜4分の1。交配・かん水はほぼ不要で、芽かき・葉かきは2段果房直下までと、樹が扇状に展開するよう誘引する。

問題は台風や大雨、黄化葉巻病である。つまり従来のトマト産地や黄化葉巻病が問題になっている地域での栽培はお勧めできないといえる。

築けたからこそ可能だ」と話す。

現実的には、この栽培方法でシシリアンルーシユを1株当たり10㎡以上収穫した実績もみられる。こんなところから考えると、低設備コストや省力化さえ考慮すれば、採算性は十分に見込めるものと思われる。

どんな品目にもいえることであるが、特に調理用トマトの場合は量的に業務系が対象であるから、売り先を確保してからの栽培をお勧めしたい。安価でうま味の強い品種を、定時定量低価格で求める業務系業者は少ない。

(阿比留 みど里・株ヒューマンコミュニケーションズ代表取締役)

▽問い合わせ先Ⅱパイオニアエコサイエンス株式会社園芸種子部 (T10) 5-00001 東京都港区虎ノ門3の7の10 ランディック虎ノ門ビル7F 03・34388・4731 FAX 03・34388・4730

## 発想逆転のソバージュ栽培 調理用トマト「シシリアンルーシユCF」

お客さま一人一人に傾ける一方で、ドにも目を向けていこう。昨年末に東京オープンした「Bio's (ビオセ) 008年にフニタオーガニック」です。自然の安全・安心を国内外の良質をそろえるほか、など手軽においに入る人気が今では生産者インターネットに得ることができ、お客さまがここで関係性を品を選ぶという者の考えや生購入するといったこともあ